

# 「中学生の税についての作文」

## 優秀作品表彰

12月11日、役場において「中学生の税についての作文」の表彰式が行われました。応募のあった123点の中から、「諏訪税務署長賞」「諏訪納税貯蓄組合連合会長賞」を各1名、「富士見町長賞」を5名の方が受賞されました。

### 【受賞作文】

#### ● 諏訪税務署長賞

「私達が受ける恩恵」

富士見中学校3年 小口真結子

#### ● 諏訪納税貯蓄組合連合会長賞

「税金で成り立つこと」

富士見中学校3年 木村 陸斗

#### ● 富士見町長賞

「私たちの学習を支える税金」

富士見中学校3年 小野 彩花

「未来のために」

富士見中学校3年 金澤 梁

「税に対する私の考え」

富士見中学校3年 越川 えり

「税金に支えられている

私たちの暮らし」

富士見中学校3年 小林 彩音

「税金について改まった

自分の考え」

富士見中学校3年 篠原 風音



「私達が受ける恩恵」

富士見中学校3年  
小口 真結子

◎受賞作文から2点をご紹介します。

皆さんは税について考えた事はあるだろうか。私は税は凄く重要な物だと思ふ。

税の種類は約50だが、その中で私達にとつて最も身近な税は『消費税』だ。私はまだ税の事をよく知らなかった頃は、

「何で税金って払わなければいけないんだらう。払う金額は余分に高くなるし、税金なんてなければ良いのに。」とばかり思っていた。しかし、その考え方が間違っていた事に中学生になつて気付いた。

私達は普段意識しないが、税は様々な所で使われている。もつと言えば、私達の生きる世界は税で溢れているのだ。火事が起こった時、私達は消防署に連絡し消火してもらう。犯罪が起こった時、私達は警察署に通報し解決してもらう。又私達は小中学校で当たり前のように教科書等を使ってきた。私達はこれらの事を無料で行っている。私達ならば、全て税金が負担してくれるからだ。もし税金がなければ、私達が負担しなければいけない。それは家庭に大きな影響を与える。そう考えると、

やはり税はなくてはならない存在だ。又、私こそ税がある事で恩恵を受けている一人といえる。なぜならば、私は生まれつきの持病がある。その分年間通して多くの通院が必要だ。それと同時に莫大な医療費がかかっている。又私の兄も生まれつきの障害がある。その介護など福祉による多くの支援が必要だ。それと同時に莫大な介護費がかかっている。しかしそれらの多くを税が負担している。それに加え、私は持病の関係で特別支援学級に所属し学校生活を送っている。しかしそれは当たり前前の事ではない事を知った。ある日の父との会話で、私など特別支援学級に所属する生徒は町の税金によって補助されている事を知った。それを聞いて私は、

「自分達はただ特別支援に在るのではなく、町の税金や人々の補助によって学校生活を送れているんだ。」と思ひ、いかに自分達が恵まれているかを感じた。

これらの様に税は私達の周りのあらゆる所に使われている。又、私の様な持病や障害がある人が受ける公共サービスを『社会保障』という。

しかし、それには問題がある。それは少子高齢化が進む事により社会保障の費用が増えていく事、その費用を負担する働き手が減っていく事だ。2016年64歳人口の65歳以上人口に対する比率は2000年では3.6人だったが、2050年になるとそれが1.3人に減少するというデータが発表されている。又国の財政赤字も続いている。これらの問題は国や社会と大きく絡み合っており興味深い。

今回この作文を書くにあたって凄く悩んだ。しかし、これを通して私達は税により多くの恩恵を受けている事を改めて感じた。今の日本には税が関わらる多くの問題がある。私達はそれについて考える必要がある。

改めて私は思う。『税は凄く重要で恩恵を与えてくれる特別な物だ』と。



### 「税金で成り立つこと」

富士見中学校3年  
木村 陸斗

現在の日本では、税金によって例えば消防、警察、教育、医療などが成り立っている。

僕は前に手術をしたことがありますが。そのときに、「すごくお金がかかるのではないのかな」と思っていた僕は、少しうしろめたい気持ちでした。両親に対して申し訳ないと思っていました。自分が、自分の思っていた金額とは異なり、それよりかなり低い金額でした。このときはよく分かっていたけど、今になって税金のおかげだったのだと分かりました。よく考えてみると、知らずのうちに自分が自分にお金を出して、くれたのだと思いました。でもそのお金は決して僕のために納めたものではないです。それでも、例えば、家が燃えてしまったという人でも、税金を納め

てくれた人に感謝の気持ちは必ずあると思います。

このように税金というものは、見ず知らずの人とつながるものだと思います。自分のために納めたものではないと知っていたとしても必ず感謝すると思います。なぜなら自分を救ってくれたのだから。

税金を納めることは、仕方ないことと思っている人もいると思うし、さらに、強要されていると思っている人もいます。しかし、他人のことを知らないうちに助けていることもあるだろうし、自分のためになる場合もあります。

将来、納めた税金が全て返ってこないことだってもちろんあると思います。でも、医療だったり老後の年金としてだったり、自分に返ってくることであります。考えてみてください。日本国民全員が税金を納めなくなったら、自分が消防や医療の手助けが必要になったとしたら、とても苦しくなりますよ。

自分の将来のために、税金を納めることが必要なんだと思います。たとえば、自分が納めた分返ってこないとしても、納めるべきなのではないのかなと思います。いつもはあたり前すぎて、気付いていない税金というもののありがたさというのに気付くことができれば納税というものが苦ではなくなると思います。

家の周りの道が整備されているのも、学校で学習することができているのも税金のおかげです。税金の必要性に今、気付くことができてよかったと思います。

## 八ヶ岳定住自立圏の形成に関する協定の一部を変更する協定を締結しました

問 総務課 企画統計係 ☎62-9332

富士見町と原村および山梨県北杜市は、平成27年7月に「八ヶ岳定住自立圏の形成に関する協定」を締結し、5カ年を計画期間とする「八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン」により、定住人口の増加に向けた連携を進めてきました。

このたび、第1次共生ビジョンの計画期間が満了となることから、今後もこの取組みを継続するため、協定の一部を変更する協定を、1月14日に締結しました。

協定の変更にあたっては、これまでの取り組みにおける検証等を踏まえつつ、八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン懇談会の意見を伺い、住民が安心して暮らすことのできる圏域とするための施策として、医療体制の充実、子育て支援、女性の活躍の分野を新たに追加し、3つの政策分野、15の施策分野で構成されています。

今後は、新たな「八ヶ岳定住自立圏」の目指す将来像や、具体的な取組事業を盛り込んだ「第2次八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン」を今年度中に取りまとめます。今後も圏域全体の活性化を図り、都市部への人口流出抑制、定住・移住人口の増加につなげていきます。

「第2次八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン」は、策定後、町ホームページにて掲載する予定ですので、ご覧ください。



▲八ヶ岳定住自立圏主催の移住相談会